

研究・調査報告書

報告書番号	担当
99	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Association between alcoholic beverage consumption and incidence of coronary heart disease in whites and blacks: the Atherosclerosis Risk in Communities Study. 白人と黒人における飲酒と冠疾患発症の関連について : ARIC 研究	
執筆者	
Fuchs FD, Chambless LE, Folsom AR, Eigenbrodt ML, Duncan BB, Gilbert A, Szklo M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol. 2004 Sep 1;160(5):466-74.	
キーワード	
飲酒、冠疾患発症、白人、黒人	
要 旨	
<p>(背景)</p> <p>適量飲酒が冠疾患発症を低下させることは周知のことであるが、適量飲酒に伴う他の生活習慣が交絡している可能性がある。異なる人種での検討が必要である。</p> <p>(方法)</p> <p>Atherosclerosis Risk in Communities Study の米国白人、黒人を対象に飲酒と冠疾患発症について検討した。平均追跡期間は 1987～1998 の 9.8 年間であった。Cox 比例ハザードモデルを用いて解析した。</p> <p>(結果)</p> <p>黒人男性では飲酒と冠疾患発症には正の相関があり(1 日アルコール摂取量が 13g 増加する毎の調整ハザード比(HR) : 1.13, 95% 信頼区間(1.01-1.28)、一方白人男性では負の相関があった(HR = 0.88 (0.79-0.99))。白人女性ではまれな飲酒 (HR = 0.47 (0.28- 0.80)) と週に 70g 以上の飲酒 (HR = 0.49 (0.24-0.98))に負の相関があった。また白人男性で週に 210g 以上の飲酒にも負の相関があった (HR = 0.56 (0.33-0.95))。黒人男性では週に 140～210g 飲酒にも正の相関があった (HR = 2.61 (1.11-6.17))。</p> <p>(結論)</p> <p>黒人と白人で正反対の結果が出たことは、適量飲酒が冠疾患発症を低下させる作用の真偽に疑義があり、適量飲酒に伴う他の生活習慣が交絡している可能性があることを示唆している。</p>	